

# やまと 民俗への招待

鹿谷 熟

早春を思わせる穂やかな気候の2月24日昼過ぎ、近鉄橿原線の田原本駅前で自転車を借りた。中街道沿いに北上し、八尾の鏡作神社（鏡作坐天照御魂神社）を訪れる。大勢の人々がカメラを持って待ち構えている。2月21日に近い日曜日に行われる御田植祭だ。

午前に祈年祭が行われ、午後から御田植保存会の人々と地元小学校の女の子で御田植祭が行われる。女の子は紺縫の着物に黄色の帯を締め、赤の前垂れと櫛をし、水色の手甲と脚絆を付けて花笠を被っている。婦人はほぼ同じ格好で、赤い蹴出し姿。男が行うこ

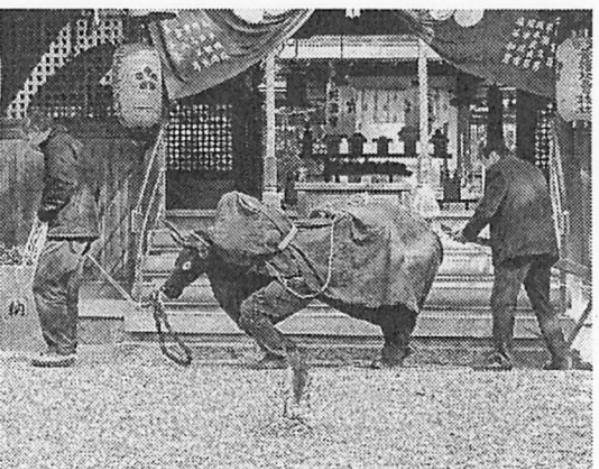
との多いこの種の行事で華やかさが漂う。

1時前から神事が始ま

り、その後拝殿前で、田植舞がにぎやかに舞われ、さらに婦人たちが稻わの束と籬を持って、稻を刈る所作をして、神前に供える豊年舞があった。

二つの舞は、第二次世界

## 二つのオンドダ行事



池神社の御田祭  
—田原本町の法貴寺で、筆者提供

大戦中に、宮内省薬部の多忠朝の指導により始めたものといふ。

次に忌竹を立て、注連縄で囲われた神田で、白子姿の男たちが農作業の眞似をする。鍬で荒田起こし、鍬で溝掘りやアゼ

きりをし、アセこね、田均しのあと畑をつく。続いて牛でカラスキやマンの喝采をあびる。最後に

砂や苗に見立てる松葉を空中に放りあげて田植えが終まる。最後の御供まきは見ないで、東北約3・5キロの法貴寺集落まで自転車で急いだ。国道24号線を北にたどり、鍵の交差点から東へまっすぐ行くと、池神社（池坐朝霧黄幡比売神社、天満社とも）だ。中世大和の武士団長谷川党法貴寺氏の氏寺法貴寺が隣接し、同社はその鎮守神とされる。神職と氏子総代、10の垣内から神社係代表らが拝殿前に集まって、2時から御田祭が始まってい

二つのオンドダ（御田植）行事は、霧興氣は異なるものの、苗代作りと苗を植える田の耕作を丁寧に神前で再現し、無事に田植えが済んだ。農作につながるような安堵感を抱かせるものだった。

（奈良民俗文化研究所代表）

|| 次回は4月3日